

# 一人ひとりが好きなことに没頭し、 学びを深められる学校に



学習院大学教授、  
中央教育審議会委員  
**秋田喜代美**



千葉県・私立渋谷教育学園  
幕張中学校高校卒業  
たつぎまの  
**立崎乃衣**



ロボット製作を通して身につけたエンジニア思考を基に、高校時代に社会貢献を果たした立崎さん。自分の好きなことに没頭することで大きく成長してきた経験を踏まえて、これから創りたい社会と教育に望むことを、秋田先生と語り合った。

〈立崎さんのこれまでの歩みはP.7で紹介〉

## 身近な人々に認められる中、 自己肯定感を高めていった

**立崎** 私が創りたい社会は、「自分にはこれができる。だったら、これもできるかも」と、誰もが自分の可能性に希望を抱くことができる社会です。みんなが「自分にはこれができるかも」と前向きになれば、きっと社会変革のスピードも加速すると思うんです。みんなが前向きになるためには、好きなことに没頭する経験が一人ひとりに必要だと考えます。私は、小学生の時にロボット製作を始めて以来、両親やチームのメンバー、メンターの大人の方から、たくさんサポートを受けました。中学校、高校では、ロボットコンテストに出るため、授業に出られなかったことがありますが、そのような時も先生方は私を応援してくれました。ロボット製作に没頭できたおかげで、私は、社会問題の解決を先導するリーダーでもあるエンジニアになるという、将来の目標を決めることが

できました。

**秋田** 周囲の人たちに、好きなことに没頭する自分を見守ってもらい、「今のあなたは素敵だよ」と認められることによって、自分らしさに対して確かな自信が持てたんですね。立崎さんの経験が示してくれている通り、興味があることを探究し続けるためには、周囲の支えが重要だと思います。

**立崎** 私は中学生の時から、担任の先生に毎日日記を提出していました。日記にはロボットのことでなく、日々の様々な出来事なども書きました。が、どの先生も、私を応援する言葉をかけてくれるとともに、先生自身の人生経験を踏まえたアドバイスやヒントを与えてくれました。信頼できる大人とのやり取りを通して、私は自己肯定感を高め、人生の哲学を学ぶことができたと思っています。

**秋田** 生徒が夢中になっていることや思ったこと、感じたことなどを、先生方は日記を通して丸ごと受け止め、人生の先輩として、先生自身の経験を踏

まえた言葉で応答してくれたんですね。深い信頼関係を築いていく見本のような関係だと思いました。

## 学校の外で学びたい、 学校の学びの価値に気づく

**立崎** これからの学校には、授業だけでなく、企業や大学と協力した広い学びを生徒に体験させてほしいと思います。私が所属したチームには、学校が休みを認めてくれず、ロボットコンテストに出場できなかったメンバーもいました。学校外の学びにも生徒がどんどん参加することができるような環境が必要だと思います。

**秋田** 最先端の技術や知識と出合おうと思うと、学校の中の学びだけではどうしても限界がありますよね。立崎さんは、学校の外の世界からたくさんの刺激を受けたと思いますが、それによって、学校の学びに対する見方や考え方が深まったという経験もあるのではないですか。

**立崎** ロボットの構造やプログラミングなどを考える中で、数学の授業で学んだことが生きた経験はたくさんあります。そうした経験をした瞬間は、目の前がぱっと明るくなったような気がしました。例えば、学校で習ったばかり

撮影場所：立崎さんが所属する孫正義育英財団の専用交流施設「Infinity」。



好きなことに没頭する経験を通して、  
希望を持って未来を描ける力を！



ロボット製作をする中の発見やチームの仲間との活動、日々の雑感など、様々なテーマで書かれた立崎さんの日記に、担任の教師は真摯に向き合い、自身の人生経験を踏まえて言葉を返した。

りの三角関数をプログラムに組み込むことで、ロボットのアームを正確に動かすことができた時には、学校の授業に対する向き合い方が変化するほど感動し、その気持ちを日記を通して先生の先生に伝えたことを覚えています。

**秋田** 立崎さんのように、学校外の学びと教科の学びをつなげられた経験を先生に伝えてもらえると、先生も、教科に対する理解をさらに深めることができます。生徒が主体となつて学びの意味を探究していることが実に素晴らしいと思います。

### 学校の先生にしかできない大切なことがある

**立崎** 今、私が気になっているのは、先生方が仕事に追われていて、とても忙しくしていることです。それはすごくもったいないことだと思います。先生方には、一人ひとりの生徒に向き合つて、それぞれの生徒に合ったサポートをすることに力を注いでほしいです。そのためには、ICTやAIなどを活用することで、授業の準備などがもっと楽になればいいのにな

思っています。

**秋田** 高校生からも、「先生方がとても忙しく見える」とよく聞きます。先生は大変そうだと生徒が思っているこの状況は、放置してはいけない問題だと私も思います。好きなことに没頭する生徒に向き合い、自分の人生の経験も交えて、その生徒の素晴らしさを認めることは、生身の先生にしかできないことです。立崎さんとお話して、これからの学校においても変わらないう、とても大切なことを確認できたと思います。ありがとうございました。